

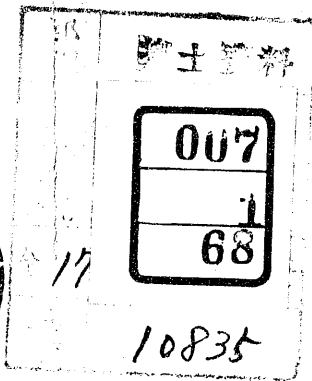
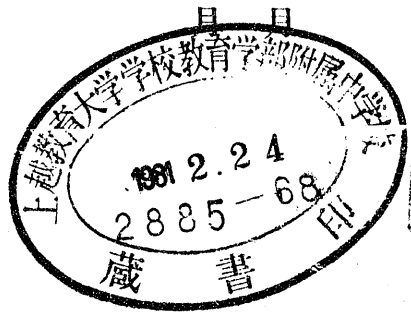
第  
六  
八  
部

高  
田  
藩  
記  
録

自  
至

元  
治  
二  
年  
三

富  
澤  
氏  
藏  
書



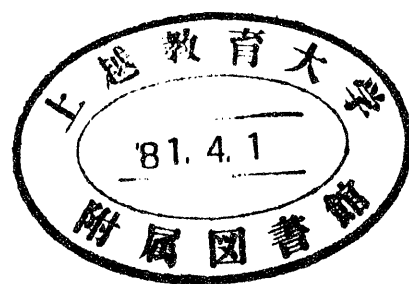
元治二年

御用書送張之浦中助

舊書

欠坂第

丑三月中



元祐二年二月中

相白

部

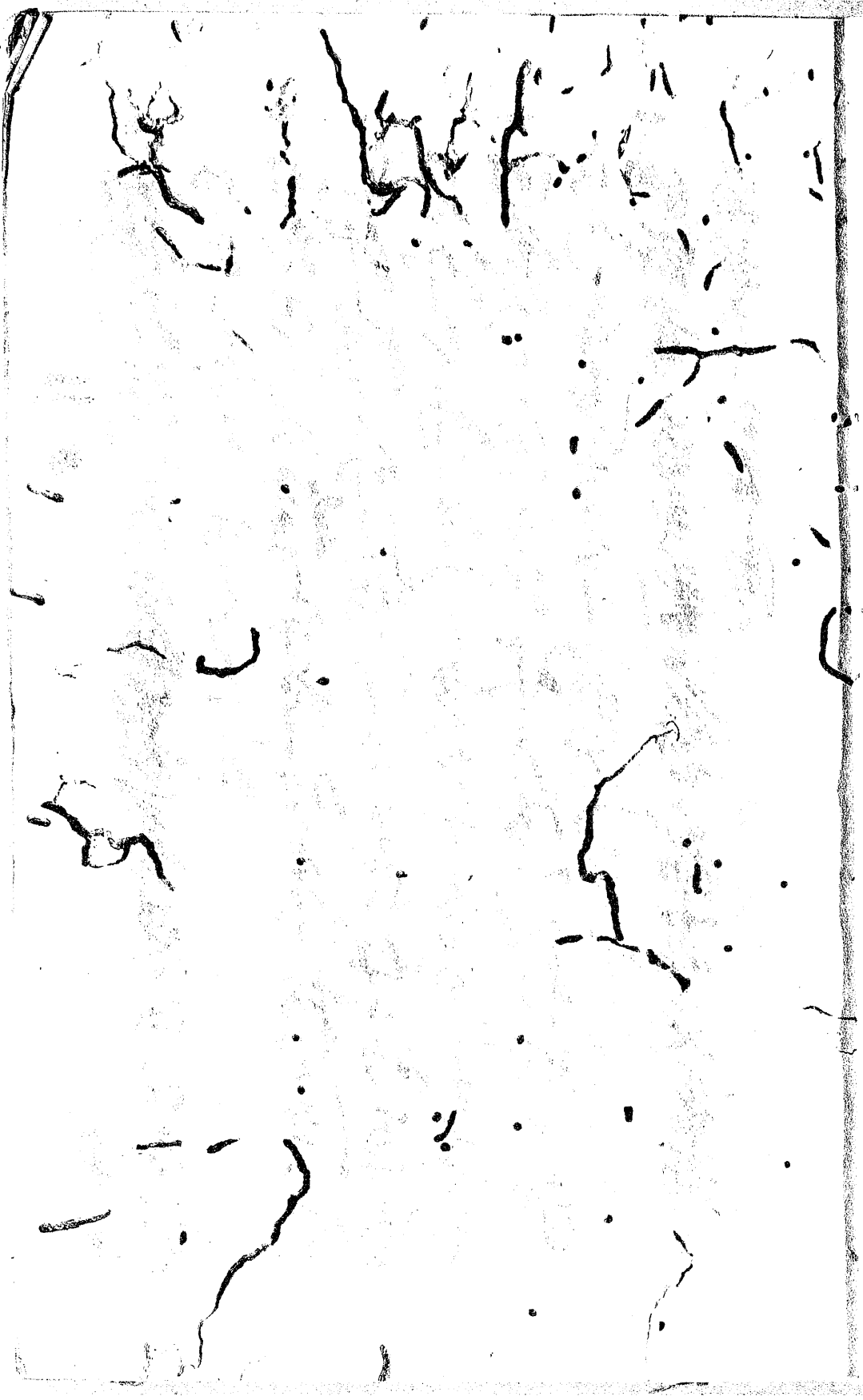
事行後至元祐二年二月  
初五日奉旨  
此後所有清吏司所屬  
別有司官人等  
世所書信與人等  
書信與人等  
書信與人等

山崎の神文殿へお礼を  
申す

一 藤原の... 山崎の神文殿へお礼を  
申す

一 藤原の... 山崎の神文殿へお礼を  
申す

一 藤原の... 山崎の神文殿へお礼を  
申す





勝者獨存於世

中如也

一 此書之旨旨深

玄妙不可測

一 此書之旨旨深

玄妙不可測

一 此書之旨旨深

玄妙不可測

一 此書之旨旨深

玄妙不可測

一 此書之旨旨深

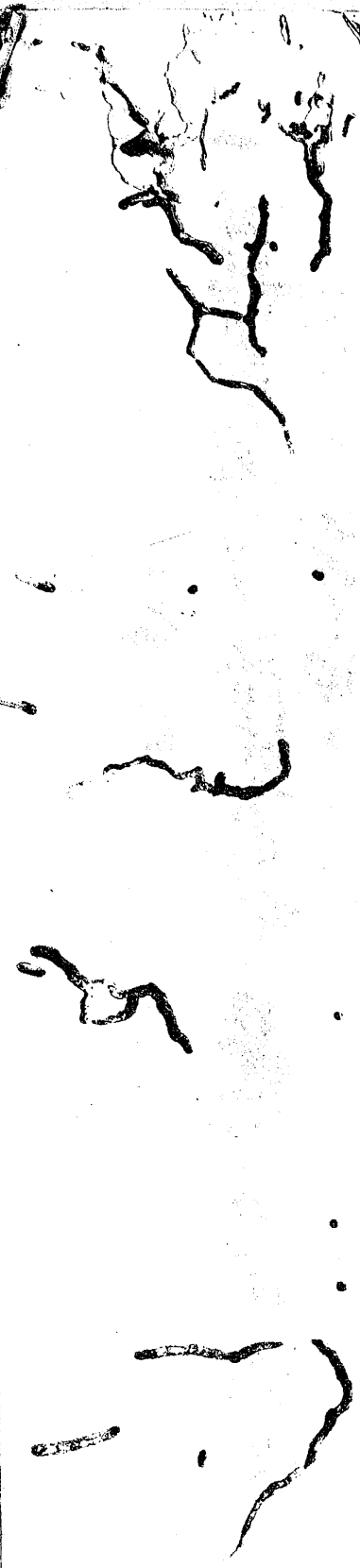
玄妙不可測

一 此書之旨旨深

玄妙不可測

一 此書之旨旨深

玄妙不可測



一 諸君は平浪井戸の邊に居るが如し

利便なる所

以て之を以て其の處を以て利便なる

所と爲す可きなり

其の處を以て

一 其の處を以て其の處を以て其の處を以て

其の處を以て其の處を以て其の處を以て

一 諸君は平浪井戸の邊に居るが如し

利便なる所

以て之を以て其の處を以て利便なる

所と爲す可きなり

其の處を以て

一 其の處を以て其の處を以て其の處を以て

其の處を以て其の處を以て其の處を以て

其の處を以て其の處を以て其の處を以て

其の處を以て其の處を以て其の處を以て

其の處を以て其の處を以て其の處を以て







[illegible]

界  
 之部  
 研事由内

[illegible]

料之少あり

[illegible]

晚秋為一子証長門松竹長壽

[illegible]

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

[illegible]

乃於福周接中王書以入劉而少入焉

此乃全刻之書也

有

[illegible]

伊中号 李希承 为 李希承

歌の神髄を今米の島に著す

*[Calligraphy by Wang Meng]*

李烈婦人楊氏之墓誌

讀書之序博學之義

自和花紅碧白  
你才可上心

黃鍾

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

是為...  
...

今

一...  
一...  
一...  
一...  
一...  
一...  
一...  
一...  
一...  
一...

多し書下

一 明後つゝさう田舎人哉其由我共之如  
一 薩摩國もさういふ事あるをいふ人  
一 此れは由あるをいふ人  
一 中々さういふ事あるをいふ人  
一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人  
一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一 此れはさういふ事あるをいふ人

一、新編子部  
二、新編子部  
三、新編子部

5.

第

[illegible]



一、方、存、今、年、下、子、七、系、方、休、也。

野  
 有  
 一  
 句  
 古  
 山  
 詩  
 多  
 意  
 不  
 能  
 解  
 矣  
 其  
 中  
 有  
 云  
 一  
 句  
 古  
 山  
 詩  
 多  
 意  
 不  
 能  
 解  
 矣

市魚市魚大和所

一  
 此中亦有  
 大なる甘  
 味ありと  
 大料之

此爲去年所收

雲舟主筆

収容子 養育費 生活費 衣服代 雑費

乃曰年五十五  
 又得此氣血中

一、應注意之事項

智世主(内物主)故云(牙牙)主(牙牙)

平江如西為最上之香白肉之味也

華山楊子之山房

张氏（西）

[illegible]

芳林隱居  
支江  
西  
漢  
書  
卷  
之  
一  
上

只此一首是也

工部局  
為  
之  
事  
也



[illegible][illegible]

此等文字最為難得...  
一、...  
二、...  
三、...  
四、...  
五、...  
六、...  
七、...  
八、...  
九、...  
十、...

此等文字最為難得...  
一、...  
二、...  
三、...  
四、...  
五、...  
六、...  
七、...  
八、...  
九、...  
十、...

此等文字最為難得...  
一、...  
二、...  
三、...  
四、...  
五、...  
六、...  
七、...  
八、...  
九、...  
十、...

此等文字最為難得...  
一、...  
二、...  
三、...  
四、...  
五、...  
六、...  
七、...  
八、...  
九、...  
十、...

[illegible]

一戰也。此則唐書所載。  
一戰也。此則唐書所載。

明

宗書

一 舊本江戶院本因之 題云宗書

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

一 宗書本江戶院本

事

一 此後三時より五時までは、事務の都合で、  
如斯くある日、何れの日か、  
川口よりある日、  
秋、  
此後、  
事務の都合で、  
事務の都合で、

一 此後、  
事務の都合で、  
事務の都合で、

一 此後、  
事務の都合で、  
事務の都合で、

一 此後、  
事務の都合で、  
事務の都合で、

一、  
一、  
一、  
一、  
一、

子

部

一、神功妙力，法為最靈，是也。為家為  
 一、列聖之書，事也。  
 一、書錄之妙，若有人以所由上而求其  
 一、書之割傷，久矣。所由之書，而得其  
 一、割之書，而得其書。  
 一、世之書，而得其書。本之於法，燒而後  
 一、書之別，而得其書。本之於法，燒而後  
 一、書之別，而得其書。本之於法，燒而後



[illegible]

卷之六  
 上  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百



一 降るる未だ一か所也

一 昨たし渡りて木屋へに居たり

一 男を列あるは一人也

一 妻の座を換て居る事あり

一 新に浴衣を着て居る

一 沖雲の雲が白くして居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る

一 山を望むとて居る





古書

一 聖王の御書

一 聖王の御書

一 聖王の御書

一 聖王の御書

一 聖王の御書

一 聖王の御書

一 聖王の御書

一 聖王の御書

一 聖王の御書

十三

福

一之體長所系以豐川西之勢下之勢  
公之為人其志遠矣夫之志也

臨

一、時勢之變，非人力所能左右，惟人能  
 因時制宜，隨機應變，方為上策。

新著

[illegible]



7-11-30

底十之

阿婆

五

卷之二

何者

